

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	歴史 A
科目基礎情報						
科目番号	43003			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	物質工学科			対象学年	3	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	なし					
担当教員	菊池 達也					
到達目標						
①欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対し日本がどのように対応したかを説明できる。 ②2つの世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向を説明し、平和の意義について考察できる。 ③19世紀後期以降の日本とアジア諸国の関係について説明するとともに、歴史に対する多様な見方を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安	最低限のレベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対し日本がどのように対応したかを論理的かつ詳細に説明できる。		欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対し日本がどのように対応したかを論理的に説明できる。	欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対し日本がどのように対応したかを説明できる。	欧米諸国が世界を一体化させていく過程と、それに対し日本がどのように対応したかを説明できない。	
評価項目2	2つの世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や平和の意義について論理的かつ詳細に説明できる。		2つの世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や平和の意義について論理的に説明できる。	2つの世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や平和の意義について説明できる。	2つの世界大戦にいたるまでの世界と日本の動向や平和の意義について説明できない。	
評価項目3	19世紀後期以降の日本とアジア諸国の関係や、歴史に対する多様な見方、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的かつ詳細に説明できる。		19世紀後期以降の日本とアジア諸国の関係や、歴史に対する多様な見方、異なる文化・社会が共存することの重要性について論理的に説明できる。	19世紀後期以降の日本とアジア諸国の関係や、歴史に対する多様な見方、異なる文化・社会が共存することの重要性について説明できる。	19世紀後期以降の日本とアジア諸国の関係や、歴史に対する多様な見方、異なる文化・社会が共存することの重要性について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第1学期開講 明治から昭和（戦前）における世界および日本の歴史的展開を、大きな時代的枠組みを意識しつつ、各時代の政治・社会を学習する。					
授業の進め方・方法	配布プリントを利用しながら講義形式で授業を進める。理解度を確認するため授業中に小テストを実施することがある。					
注意点	前回の授業で話した内容が次の時間にもつながるケースが多いので、授業にのぞむ前に復習をしっかりとやってほしい。また授業では教員が話すことを聞くだけでなく積極的に発言してもらいたい。ただし授業に関係のない私語は厳禁。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス・歴史学とは何か		シラバスの内容および歴史学の研究手法の概要を説明できる。	
		2週	欧米の台頭と日本の開国		日本がなぜ開国させられたのか、当時の世界情勢をふまえながら説明できる。	
		3週	江戸幕府の終焉		江戸幕府がどのように滅亡したのか説明できる。	
		4週	明治新政府の構想と展開		明治新政府が実施した諸改革について説明できる。	
		5週	憲法制定と国会開設に向けて		どのようにして憲法が制定され、国会が開設されたのか説明できる。	
		6週	条約改正		条約改正実現までの流れと、それが実現できた要因について説明できる。	
		7週	日清・日露戦争		明治期における日本の対外関係と、日清・日露戦争の背景・意義について説明できる。	
	8週	中間試験		前半の内容を整理する。		
	2ndQ	9週	第一次世界大戦と日本		第一次世界大戦が起こった背景および第一次世界大戦が日本にとってどのような意義があったのか説明できる。	
		10週	政党政治の展開		政党政治が広まっていった経緯とその要因について説明できる。	
		11週	国際協調体制の模索と崩壊		第一次世界大戦後に世界が作りあげた国際協調体制のしくみと、それが崩壊した要因を説明できる。	
		12週	政党政治の終焉と軍国化		政党政治の時代が終わった要因を説明できる。	
		13週	第二次世界大戦と日本		第二次世界大戦に日本が参戦した要因を説明できる。	
		14週	まとめ		後半の内容を整理する。	
		15週	答案返却			
16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	

				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	

評価割合							
	試験	期末小テスト	中間小テスト	小テスト	態度	その他	合計
総合評価割合	0	30	30	30	10	0	100
基礎的能力	0	30	30	30	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0